

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渕4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成24年1月6日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPubl/c.do?JCD=2172101095&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身対応型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、施設理念をスローガンにし、スタッフ一同支援させて頂いています。
 特浴室が設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能な施設です。現在は、介護度の高い方が多く、活動に制限が出てきてしまっていますが、月に一度は音楽療法を兼ねた誕生会を開き、懐かしい歌・季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごしてもらるようにしています。また、保育園や自治会の行事に参加させて頂いたり、運営推進会議の際にイベントと一緒に等、地域・家族の方とのつながりを大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同系列の事業所が複数あり、互いが情報交換し合い、事業所独自の理念を見直し全職員で作り、常にサービスの質の向上を目指している。外部評価に向けての自己評価を職員がサービスを見直す材料として全体で取り組んでいる。職員は其々の役割を自覚し、お互いが良い影響を与え合える関係作りに努めている。利用者の暮らしや生活を「江並新聞」を手作りし配布することで住み慣れた地域や馴染みの場所での関係を継続する支援をしている。家族の思いや利用者一人ひとりの個性を大切に柔軟なケアを心掛けている。重度化した場合は安心して穏やかな最期を迎えることができる看護体制を整えている。管理者は職員の人材育成に力を入れ、研修にも積極的に参加できる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方らしい生活を支援させて頂くために、『利用者様本位『できる力で生き活きと!!』笑顔あふれる江並「福寿苑」と理念をスローガンにし、全スタッフで取り組んでいます。月一度の全体会議で唱和し、確認しています。	設立当時につづいた理念を基本として昨年、全職員で話し合い事業所独自の理念を検討し短く分かり易く作り直した。また、日々のケアの中で、利用者に寄り添うことで、理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や自治会の行事に参加させて頂いたり、運営推進会議に自治会長様・民生委員様・消防・交番の方々に参加して頂き、また会議にあわせてイベントを行い、情報交換やご利用者が地域の方と会話できる機会が持てるよう努めている。	保育園や小中学校、高校等や各団体等のボランティアを受け入れている。地域の神社の祭りに参加したり、地域の会合で認知症についての理解を説明したり、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップ・中学生の職場体験を引き受けている。地域の方にも認知症の方を理解してもらえよう、こちらから出かけるだけでなく、施設内の行事にも参加して頂けるよう働きかけていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの方に、参加して頂けるように、会議だけでなく、イベントを一緒に行うようにしている。消防署や交番の方にも出席して頂き、情報共有に努めています。会議の結果は月一度の全体会議時に報告や話し合いをし、サービス向上に努めています。	会議を事業所の行事や茶話会に合わせ行い、消防署や交番職員も構成員として参加しやすい工夫をしている。事業所の近況や課題を話し合い、家族や自治会からの要望や意見を聞き、その内容を全体会議で職員と話し合い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出時や、運営推進会議時に、サービスの取り組みについての報告や相談をしている。県や市が主催する研修やケアマネージャーの研修会に参加し、情報交換に努めています。	管理者が市役所に必要時に出かけ、事業所の現状を報告・相談している。感染症予防の対応や制度の解釈・理解についての相談等連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面しているという立地上の問題から、生命を最優先する為に、各階の入り口は施錠させてもらっている。鍵をかける弊害については全スタッフが理解しており、外出希望の強い方・入り口付近のドアを開けようとする方に対しては、外気に触れて頂いたり、散歩に出かけたり、個々に対応させてもらっている。	研修会等に参加し職員全員で話し合い、拘束をしないケアに努めている。利用者が玄関前に立つなど外出希望の様子が見られる場合は、一緒に散歩に出て満足するまで付き合うなど、拘束についての弊害を理解しケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する研修に参加し、月に一度の全体会議時に報告を兼ねて勉強会を行い、全スタッフが再認識できるようにしている。日々、ご利用者様一人一人のペースに合わせた支援ができるよう努めています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県が主催する研修に参加し、月に一度の全体会議の報告を兼ねて勉強会を行い、全スタッフが再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にキーパーソンとなる方に、重要事項説明書を用い、分かりやすく説明をさせて頂いている。納得して頂いた上で、署名・捺印をお願いし、不明な点等あれば、いつでも聞いてもらえるようお伝えし、聞きやすい環境づくりにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の入り口に御意見箱を設置し、いつでも気軽に要望を投函して頂けるようになっている。エレベーターに第三者苦情受付等のポスターを掲示している。年に一回は、ご家族様にアンケートを実施し、ご意見を運営に反映させるようにしている。	毎年、定期的に利用者アンケートを取り結果を郵送で返信し、普段から意見や要望の把握に努めている。アンケート結果で身近な外出支援の意見があり、ボランティアの活用や人員配置の充実を図り工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議は夜勤者以外の全スタッフに参加してもらえるように、夜間の時間で行い、議題をあげて、話し合いをしている。日頃からスタッフ間は、意見を何でも言える関係になっており、その場で検討し、解決する事も多い。	職員とは気付いたことは何でも話し合える関係である。職員は其々の役割を理解し、日常的に職員意見を集約し、全体会議で話し合っている。勤務時間帯について必要な時間帯に職員を配置出来るよう勤務体制の変更をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限りは可能にし、働きやすいように配慮している。資格を取得し、キャリア アップ システムが実践できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間で一人一研修は参加してもらうように、声をかけている。研修案内・報告書は、事務所に設置し、いつでも閲覧できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で、講師をお招きし、同じ系列のスタッフが集まり、勉強会を実施している。他の事業所の取り組みについて、良い事は施設の活動に取り入れたり、質の向上につなげたりしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に施設内を見学してもらい、雰囲気を感じてもらおうようにし、安心して頂いた上で、入所申し込みをして頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、まずは見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらうと共に、ニーズを少しでも聞き出せるようにしている。入所されてからは、何でも話せる環境作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐ入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーに相談させて頂いたり、ご本人様・ご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の先輩であるという事を、全スタッフは認識しており、普段から教えてもらう場面も多い。洗濯物を畳んだり、簡単な調理の下ごしらえと一緒にいき、日常的に会話を多く持てるような環境となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちスタッフよりも、家族の方と過ごしてきた日々は、もちろん多く、その絆は計り知れないもの。面会時や運営推進会議の際に、ご意見をお聞きし、ケアに反映できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	運営推進会議の際にイベントを行う等、家族や親類・知人に参加を呼び掛け、ご本人様が大切にされてきた関係を保てるように働きかけている。なじみの場所への外出ができるようにしていきたい。	「江並新聞」という情報誌を手作りし配布することで、行事の参加を呼びかけ、馴染みの人等との繋がりが途切れないようにしている。また、季節の変わり目等衣替えの時期には家族に依頼し事業所に足を運んでもらう機会の一つとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様のADLや性格を参考にしながら、ご利用者様同士の会話が楽しめるような席の配置にしている。なじみの環境により、お互いに安心感を持ってもらえるように努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で過ごされていたご利用者様の生活リズム等の情報提供に努め、他施設や病院へ転院されても、混乱が軽減できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつや飲み物を選んでもらえるようにするなど、ご利用者様の希望や意向の把握に努めています。言葉で意思を伝えるのが難しくなられた方に対しても、なるべく思いが反映できるような場面作りに努めている。	日々のケアの中で表情の変化を見逃さず意向の把握に努めている。言葉で意思表示できない利用者には、しぐさや無口になったりと態度や雰囲気の変化で思いを把握し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や、これまで担当されてみえたケアマネージャーより、今までの暮らし方や価値観等をよくお聞きし、大切にされていた物等は、可能な限りお持ち頂き、安心して過ごしてもらえるような環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃さないようにしています。月一度の全体会議後、ケースカンファレンスを行い、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全スタッフが把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リスクポイントシートを活用し、個々のご利用者様の状態を把握すると共に、ケースカンファレンスで全利用者様のモニタリングを行い、目標の達成度を確認し、プラン作成につなげている。ご家族様や関係者の方には、面会や行事時、お手紙等でご要望等をお聞きしている。	移動・移乗・排泄・入浴・食事についての状態を記録し、個々の介護計画に反映している。家族・利用者の意向も含め、全体会議でモニタリングを基に、職員の気づきや意見を取り入れて介護計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用する事により、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容を基に、担当スタッフが記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調が悪い方には、食事形態を工夫したり、入浴を一般浴から特浴に変更したりと、個々の心身状況に合わせた支援を行っています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長様、民生委員様、消防署・交番より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。他の地域の方にも、運営推進会議に出席して頂けるよう、働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度、協力医による往診がある。入所前までのかかりつけ医やご希望に応じ、他の医療機関を受診する事も可能である。夜間であっても、医師の指示により、看護師が対応したり、翌朝受診をしたりと態勢ができています。	利用者・家族の希望に応じ、従来からのかかりつけ医への受診をしている。事業所の看護師が家族へ情報提供し医師からの指示を受け、受診結果の報告を受けることで情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時はもちろんの事、小さな変化でも相談し、処置等の対応ができるようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会をさせて頂いたり、ご家族様と連絡を取るよう心がけ、情報収集に努めている。入退院時には、サマリーや病院の関係者と情報交換をし、ご利用者様が安心して医療や介護を受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様に終身介護についてのご希望を確認し、同意書をとっている。異常時や変化があった場合は、その都度ご家族様に意向を確認し、その旨を施設看護師が協力医に相談、調整を行っている。	重度化した場合等について、入居時に利用者・家族の希望を確認し共有している。変化があった場合は、その都度、家族の意向を確認し、協力医との連携により、職員・家族と情報を共有しながら支援している。看護師が数日間泊まり込む場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは、年に一回、救命講習を受けてもらい、実践力を身につけるようにしている。個々のご利用者様の異常指示書が作成されており、介護スタッフが落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回、大きな訓練をご利用者様と一緒にいき、もう一回は夜間を想定したシミュレーションをしている。二階階段に災害時用の物品を用意している。	地域住民の力は必要と自治会長に呼びかけ、非常時の連絡時間を計り避難訓練を行っている。災害用の備蓄品も準備している。夜間想定避難訓練はシミュレーションはしているが、まだ実施までには至っていない。	夜間には職員配置が手薄になることも予想されるので、夜間想定訓練を行い、そこから生まれた問題点や課題を見出し、更に安全を目指した体制を整えることを期待したい。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導を行う際は、ご本人のそばまで伺い、声をかける事で、プライバシーを尊重した支援をするように努めています。	居室に入る時に必ずノックし、利用者一人ひとりに接する時は、その人の生活歴を重視した言葉かけをしている。居室に置いてあるオムツやパットは入れ物に布を貼り分らないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に質問形式での声かけをする事で、希望の表出や自己決定ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様が思うように過ごして頂けるよう、こちらから声をかけたり、表情から読み取れるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に何う事は難しくなってきた為、その方に合ったスタイルをご家族様等におたずねし、その人らしさを保てるように支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせ、食事形態を変え、召し上がってもらっています。季節の食材等を取り入れた食事をお出しするようにしています。	利用者個々の身体機能に合わせて、もやしのひげ取りなど、出来る事を職員と一緒にやっている。ご飯は普通・柔らかめ・おかゆと形態を変えている。職員も一緒に食べて食材の話をしなが、食事を楽しむ時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが困難になられた方には、水分のあるものに、トロミをつけさせて頂いたり、主食はお粥に、副食はキザミやペーストにさせて頂いたりとその方に合った対応をさせて頂いています。なるべく経口から摂取して頂きたいと考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関しては、お声をかけさせて頂き、ご自身で行う事が難しい方に関しては、口腔ケアスポンジを使用し、できない部分をお手伝いさせて頂いています。毎食後行い、清潔を保てるように取り組んでいます。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録や申し送りを基に、その方の排泄パターン・時間・その方のその時のご様子を見計らいながら、声かけや誘導をしています。なるべくゆっくり排泄できるように、スタッフ間で連携しながら、便座に座られている時間等にも配慮しています。	排泄パターンやしぐさ・行動を把握して声かけしトイレ誘導をすることで、失敗を減らし、自信に繋げ自立への支援をしている。職員は申し送り時の記録により、排泄パターンやしぐさを共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に合わせ、おやつにバナナやヨーグルトなどを召し上がって頂いたり、セナ茶を飲んで頂いたりしています。また、腹部をマッサージさせて頂いたり、自然排便となるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室があり、身体状況に合わせて、入浴ができるようになっている。自己決定ができるご利用者様には、午前、または午後どの時間に入浴されたいか、希望をお聞きしている。	利用者個々の状態や希望に応じ、個浴や機械浴を使いわけ入浴を楽しめるようにしている。入浴を好まない利用者には、声かけや順番を工夫しタイミングを見つけて気持ち良く入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調等に合わせ、日中も休んで頂けるようにしています。空調にも配慮し、冬場は、ご利用者様によって、湯たんぽをご利用される方もおみえになります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用されておられる薬の冊子があり、薬の目的や形態・副作用・注意点等が記載されている。また、スタッフがいつでも確認できるようにしている。内容を理解したうえで、服薬の支援と症状に変化がないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時代劇を観られると、主題歌等をよく歌われる為、昔の歌を流したり、その方が口ずさまれる歌を、日常的に一緒に歌ったりし、昔を思い出して頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くのコンビニに買い物に出かけたり、近隣を散歩したりしている。また、季節により地域のお祭りに参加したり、保育園の行事に参加したりしている。	地域の行事や保育園の運動会に参加したり、近くの神社に散歩に出かけたりしている。利用者の体力的な問題や職員の配置の関係で利用者個々の希望に沿った外出支援には至っていない。	利用者の気分転換や季節の移り変わりを感ぜられるように、利用者の体力に沿った外出が出来る工夫を期待したい。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者が買い物を希望されれば、スタッフと共に一緒に買い物に出かけています。財布を持っていないと不安になられる方に関しては、ご家族様の了承を得たうえで、ご本人様自身が所持できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話ができるようになっている。手紙に関しても同様である。運営推進会議の地域の方への案内葉書を一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに畳敷きの場所やソファを置き、ご利用者が自由に会話を楽しんだり、テレビを見てくつろげるような環境作りをしている。お祭りですくった金魚を育てたり、壁面に季節の飾り付けをしたりし、生活感や季節感を感ぜられるようにしている。	リビングには畳のコーナーやソファを配置することで、ゆったりとくつろげるように工夫している。壁前の棚にお祭りの金魚を飼育し、ベランダには洗濯物が風に揺れ、野菜がプランターで栽培している等、季節感や家庭的な雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ側にソファが設置してあり、一人もしくは数人で過ごせるようにしている。個々のご利用者が落ち着いて過ごせる場所を日頃より把握するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室か洋室かを、ご利用者の身体状況や体調・好みに合わせて選べるようになっている。ぬいぐるみや写真を飾り、その方らしく暮らせるようにしている。また、オムツを使用される方に関しては、目につきにくいよう配慮している。	使い慣れた整理棚や箆笥の上に位牌を持ち込んでいる利用者もいる。居室は和室と洋室があり、好みで選べる。和室は照明も和風で家庭的な環境の中で居心地良く過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の行動を制限してしまわないよう、障害物を置かない・床に段差をつけない等、安全な環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共壽		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成24年1月6日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/infomat/onPublic.do?JCD=2172101095&SCD=320&POD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方らしい生活ができるよう支援させて頂く為に、『利用者様本位』でできる力で生き活きと！！笑顔あふれる江並「福寿苑」と理念をスローガンにし、全スタッフで取り組んでいます。月一度の全体会議で唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地元のお祭り等の行事に参加させて頂いています。 また、保育園の運動会等に参加させて頂き、地域の方と交流できる機会を持てるように少しずつですが、努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップや中学生の職場体験を受け入れています。 地域の方にも足を運んで頂けるよう、運営推進会議の際、イベントを合わせて行い、足を運んで頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に参加を呼び掛け、会議を行っています。 会議で出たご意見は、毎月行われる全体会議で検討し、サービスの向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に市の職員の方等に、インシデント・アクシデント報告をさせて頂き、ご意見やご助言を頂いている。 市が主催する研修会にできる限り出席し、情報交換に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面しているという立地上の問題から、生命を最優先し、各階の玄関を施錠させて頂いている。鍵をかけるという事の弊害は全スタッフが理解しており、外へ出たいとおっしゃられる方に関しては、その都度、話をお聞きしたり、外へ散歩に出かけたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の高齢者虐待防止関連法についての研修に参加させて頂き、その報告を全体会議の場で報告・勉強会につなげ、前スタッフが周知徹底している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の勉強会で、全スタッフが制度を理解するようにしている。 現在、1名のご利用者様が、日常生活自立支援事業を利用されておられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時、重要事項説明書を用い、内容をキーパーソンとなられる方に詳しく説明させて頂いている。十分理解して頂いた上で、署名・捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階の入り口にご意見箱が設置してあります。エレベーターの中に第三者苦情相談受付のポスターを掲示してあります。 年に一度はご家族様にアンケートをお願いし、ご意見やご要望をお聞きできるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議の際、スタッフの意見を反映させ、話し合える場がある。 普段から、何でも話し合える環境となっており、その都度、相談し、解決できる体制となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれの希望を、できるだけ可能にして、また個々の家庭環境に合わせた労働体制となっており、働きやすい職場環境となるように努めている。資格を取得し、キャリアアップシステムが実践できるようにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、事務所に研修案内ファイルを設置。いつでも閲覧できるようになっている。 年間を通して、全スタッフが一人一研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で講師をお招きして、全事業所を対象とした勉強会を行っています。 県や市が主催する研修会に、できる限り参加し、情報交換や交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に、まずは施設を見学して頂き、雰囲気を感じて頂けるようにし、不安や心配ごとを解消してからの、サービス開始となるようにしています。 入所されてからも話しやすい環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様のご苦労や、サービス利用状況等をお聞きし、ニーズをできるだけ引き出せるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや見学におみえになられた際、まず入所に結び付けるのではなく、担当されておられるケアマネージャーに相談させて頂いたり、ご本人様・ご家族様が本当に困っていらっしゃる事は何なのかを明確にした上で、サービス利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩であるという考えを全スタッフが共有している。洗濯物を畳んだり、作業を一緒に行う中で、同じ目線で会話をし、多くの事を感じ取れるように心がけています。また、その機会を少しでも増やせるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所される前の、暮らし方や介護の方法、ご本人様の価値観等をお聞きし、支援方法について、共に考えていく関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントを行う際、ご家族様だけでなく、知人や親類の方に参加してもらえるように、働きかけをしている。 なじみの場所になかなか出かける事が難しい状況にあるが、今後、関係が途切れてしまう事のないように努めていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様のADLや性格を参考にしながら、ご利用者様同士の会話を楽しめるような席の配置に心がけ、顔なじみの環境により、お互いに安心感を持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご自宅や他の介護施設・病院へ移られても、ご本人様の混乱が少しでも減らせるように、当施設での生活リズムや支援方法等の情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、ご利用者様の表情や言葉から、思いや意向を察するように心がけています。 小さな事でも、選択して頂けるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やこれまで担当されておられたケアマネージャーより、今までの暮らし方や価値観等をお聞きし、大切にされてみえた物は、お持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のご利用者様の生活リズムや、その日に起こった小さな出来事でも記録に残し、全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リスクポイントシートを活用し、現在の心身状態を把握できるようにしている。ケースカンファレンス時に全利用者様のプランに対する達成度等を確認し、各担当スタッフがプランの評価を行っている。ご家族様や関係者の方からは、日々のかかわりの中から、思いやご意見をお聞きしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のご利用者様の食事や排泄、エピソード等を記録や申し送りノート、連絡ノートに残し、いつでもスタッフは確認できるようになっている。 勤務を開始する前に、必ず目を通してから、業務に入るよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状況に合わせた支援ができるように努めています。 体調が優れない方には、食事の主食をお粥に、副食を刻ませて頂いたり、入浴は一般浴から特浴や清拭に切り替えて対応させて頂いています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、自治会長様・民生委員様・消防署・交番の方に出席して頂き、情報交換しています。施設理念『利用者様本位』でできる力で生き活きと！！笑顔あふれる江並「福寿苑」をいつも頭に置き支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度、協力医による往診があり、必要に応じて、いつでも相談できる関係となっています。 入所前のかかりつけ医や他の医療機関も気兼ねなく受診する事ができます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置し、常時連絡が取れる体制となっている。 介護スタッフは、異常時はもちろんの事、どんなに小さい事でも、看護師に相談し、対応できる関係となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、頻回に面会させて頂き、医療関係者やご家族様より情報収集に努めています。 また一か月は居室をおとりできる旨を説明し、ご利用者様・ご家族様が安心して医療や介護が受けられるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、経口摂取や自力歩行が困難になられても、入所継続が可能であるという説明を行い、終身介護についての希望をお聞きし、同意書に署名をお願いしている。異常や状態変化があった場合は、ご家族様・協力医の方針を確認し、施設看護師が調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは、一年に一回、救命講習を受けてもらい、実践力を確認・身につけるようにしている。個々のご利用者様の異常指示書が作成しており、介護スタッフが落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度はご利用者様と一緒に大きな避難訓練を行い、もう一回は、夜間を想定したシュミレーションをしている。 2階階段倉庫に災害時用物品を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は必ずカーテンやドアを閉め、プライバシー保護に努めています。 面会時等も、ゆっくり過ごして頂けるように、居室へご案内し、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつやお飲物を複数準備し、ご自身で選択して頂けるようにしています。 意思表示が困難な方に関しても、必ず声をかけ、表情から読み取り、些細なことでも、ご本人様に決めてもらえるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないように、個々のご利用者様に合わせて対応している。 自室で休息を取る・取らない等は、ご本人様にお任せし、いつでも居室で休むことができるように空調管理にも気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台には、くしやブラシ等を用意させて頂き、なるべくご自身でして頂けるようにしている。 朝の洗面時には、温タオルを準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ前には、ご利用者様にお声をかけ、テーブル拭きをお願いしている。 お出した食事を「おいしいよ。」と言って下さる時は、スタッフも感謝の言葉を伝えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時のおやつ時には牛乳・ココア・紅茶・スポーツ飲料等の水分を200ml摂って頂いている。 ミキサー食の方でも、おやつはキザミで良い方もみえ、その方に合った、食事形態でお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、歯磨きやうがいといった口腔ケアを行うようにしている。ご自身でできる方に関しては、必要物品の準備とお声をかけさせて頂き、困難な方に関しては、こちらで義歯洗浄や口腔ケア用スポンジを使用して清潔保持できるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者様の排泄パターンを把握し、記録や時間をみて、お声をかけさせて頂いている。昼間はなるべくトイレへ行って頂き、その方に合ったオムツやパットを選択し使用して頂いている。夜間のオムツ交換は21時・0時・3時に必ず行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最初から下剤を使用するのではなく、ヨーグルトやセンナ茶を飲んで頂き、自然な排便となるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室が設けてあります。また一般浴にも昇降機が設置しており、個々の状態に合わせた入浴方法で入って頂けます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも仮眠をとり、休息できるよう居室の空調管理にも気をつけています。夜間、眠られなかった方に関しては、昼間休んで頂く等の配慮をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服薬されておられる目的・用法等、確認できるようにファイルが作成しており、いつでも確認できるようになっている。体調を観察し、医療と連携し、服薬支援につなげています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物をたたんで頂いたり、ご自分のお好きなおやつを選んで頂くなど、小さな事でも楽しみを持ってもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のお祭りや保育園の運動会などに参加させて頂いている。気候の良い時は、気分転換を兼ね、散歩に行っている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ってみえないと不安になられる方もおみえになり、そういう方に関しては、ご家族様の了承を得たうえで、ご本人様自身で所持できるようになっている。 買い物はスタッフが同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望があれば、ご家族様にも協力して頂き、電話のやり取りができるようになっている。 手紙に関しても、同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに、生活感や季節感を取り入れるようにしており、リビングには畳敷きの場所やソファを設置し、ご利用者様が快適に過ごして頂ける環境づくりを心掛けている。 加湿器を使用する等、空調管理にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に二人～三人掛けのソファを設置し、お一人でゆったり過ごして頂いたり、気の合う方と歓談できるように配慮している。 ご利用者様一人一人が、落ち着いて過ごせる居場所を、日頃から把握し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様にとって落ち着いて穏やかに過ごして頂けるように、和室か洋室を選択できるようにしている。 居室には、慣れ親しんだ物や写真を飾って頂く事ができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の残存能力を活かし、安全に安心して、毎日を過ごして頂けるように、段差や障害になる物を移動・撤去する等し、配慮している。また、混乱される場合は、ご家族様と相談し、ご本人様にとって、何が良いのか検討している。		